

自然エネルギーと併せて地域貢献を

共和地区でワタミ株式会社のメガソーラーが始動

5月15日、外食事業や介護事業、農業・環境事業などを展開するワタミ株式会社（清水邦晃代表取締役社長）が、株式会社CS S（吉住謙代表取締役社長）と連携して開発・建設を進めていた北海道厚真町メガソーラー（大規模太陽光発電所）の竣工式が共和地区の発電所敷地内で行われ、清水邦晃社長や工事関係者、宮坂町長、渡部町議会議長、町議会議員、地元自治会長など約50人が参列しました。

式では、清水社長がこの厚真町で、自然エネルギーだけではなく、厚真の自然と恵みを日本で暮らす人たちに届けていけるような取り組みのスタートになればと思っています。厚真の良さを知り、地域の方たちにも喜ばれるような取り組みができれば」とあいさつ。また、来賓として宮坂町長がお祝いの言葉を述べ、その後、清水社長や宮坂町長ら8人がテープカットを行いました。

北海道厚真町メガソーラーは、株式会社CS Sとワタミグループの100%子会社で環境事業を推進するワタミファーム&エナジー株式会社が管理・運営を行い、両者の出資・融資により設立された株式会社コミュニティ・ソーラー（小出浩平代表取締役社長）が売電等を行います。

事業規模は、敷地面積約25畝に太陽光パネル6万枚を設置。太陽光発電容量は約15MWで、年間予想発電量は約1,500万kWh（一般家庭4,000世帯分）となっています。



テープカットを行う清水社長、宮坂町長ら

干ばつ被害なく豊穰の秋を 厚真ダム水神宮で取水式

町土地改良区（山田英雄理事長）主催による取水式が5月8日、厚真ダム水神宮で行われました。

取水式には、町土地改良区、町、町議会、JAとまこまい広域、農業委員会、いぶり農業共済組合、地元自治会関係者など約30人が参列。

参列者らは、今年も1年水が枯れることなくすべての用水に水が行きわたり、秋の落水まで干ばつ被害がなく、上質米が収穫できるようにと願いを込めて玉串を捧げていました。



干ばつ被害なく豊穰の秋を願う参列者

者・団合同幹部会議



宮坂管理者へ表彰報告を行う木村団長ら

胆振東部消防組合厚真消防団 が消防庁長官表彰を受章

胆振東部消防組合厚真消防団（木村幸一団長）が、平成26年度消防功労者消防長官表彰を受章しました。

この表彰は団体としては最高の表彰で、防災思想の普及や消防施設の整備、災害の防御に関する対策の実施について、特に優秀で他の模範と認められる消防機関に授与されるもので、全国で40団体、道内では7団体が受章。厚真消防団は、永年にわたる献身的な災害活動と消防力の強化に努めた実績が優秀と認められ、今回の受章となりました。

木村団長は「大変名誉なこと。今後も災害に備え、一致団結して頑張りたい」と喜びを語っていました。

5月のまちの話題

Town Topics

地域おこし協力隊・農業支援員として 高野幹嘉さん(40歳)に委嘱状を交付



町長から委嘱状を受ける高野さん

6月2日、地域おこし協力隊・農業支援員の委嘱状交付式が行われ、新しく支援員となった高野幹嘉さん（40歳）に宮坂町長が委嘱状を手渡しました。

高野さんは神奈川県企業の半導体のLSIの設計開発に携わっていましたが、北海道で農業に取り組んでみたいと思うようになり、今年1月に退職。2月に東京で行われた新・農業人フェアを訪れた際、厚真町で支援員を募集していることを知り、北海道で新規農業を目指すには最良のチャンスだと思い応募したとのこと。

委嘱状を受け高野さんは「いただいたチャンスを生かして期待に応えたい。不安もありますが、いろいろな挑戦していきたい」と抱負を語っていました。

宮坂町長は「周りの人たちに助けてもらいながら、これまでの経験や意欲を地域に分け与えていただければ。思い切ってチャレンジしてください」とエールを送っていました。



浜厚真自治会が 野原公園の花壇整備

5月26日、浜厚真自治会（館山春会長）が、国道235号線沿いの野原公園の花壇整備を実施しました。これは、町の入口である国道沿いをきれいにし、て出迎えようと、毎年実施されているもの。

今年も、自治会員のほか、町職員やボランティアなど約30人が参加。参加者は、それぞれ手分けして花壇の草取りなどを行った後、一つひとつ丁寧に花を植えていました。



企業も地域貢献でお手伝い
あつまを元気にする会花植え

あつまを元気にする会（池川徹会長）が5月25日、町商工会そばの敷地に所有している花壇で花の植栽作業を行いました。

当日は会員8人のほか、町内で工事を請け負い、地域貢献の一環として3年前から同会の事業を手伝っている株式会社高橋建設（洞爺湖町）の職員3人が参加。会員らは、機械で花壇の土をおこし、シートをかけた後、708株の花を植えていました。



さくら保育園（金光朋充園長）で5月16日、餅つき会が行われ、園児と保護者が親子で餅つきを楽しみました。

この行事は、粘り強く元気な子になるようにとの願いを込め、子どもの日の行事の一環として同園で毎年開催されているもの。

園児たちは、杵の重さに負けそうになりながらも、父母や先生、お友だちの声援を受けて元気いっぱい餅をついていました。

さくら保育園で餅つき会

5月11日、厚真市街地交差点で「セーフティコールあつま」が行われ、町内各団体・事業所などから約90人が参加しました。

参加者は、道路の両脇に分かれて「シートベルト着用」「スピードダウン」「飲酒運転撲滅」などと書かれたのぼりを掲げ、交通安全と事故防止を呼びかけました。

また、町公式キャラクターのあつまくんも参加し、道行くドライバーに安全運転を呼びかけていました。



交通安全を呼びかけ「セーフティコール」



1本1本苗木を植えていく参加者

漁協厚真支所青年部・女性部が植樹会

5月16日、桜丘の町有林で鶴川漁業協同組合厚真支所青年部・女性部の「木を植えて環境を考える植樹会」が行われました。当日は25人が参加し、新町町民広場のバーベキューハウスに利用されたカラマツ材を伐り出した町有林約0.21ヘクタールに、430本のカラマツの苗木を植樹しました。植樹に先立ち、青年部の西舘純之部長が「一本一本丁寧に植えましょう」とあいさつ。参加者は慣れた手つきで、時折笑顔を見せながら手際良く植樹を進めていました。

※この植樹会はニトリ北海道応援基金助成事業からの助成を受けて実施されました。

奨励品種決定のための現地試験

5月25日、石橋公昭さん(宇隆)のほ場で奨励品種決定現地試験(田植え)が行われました。これは、道産米の奨励品種を決定するための現地試験として行われているもので、品種にはまだ認められていない3系統(空育181号、空育183号、北海327号)と、比較材料とするため、すでに奨励品種となっている5品種(ゆめぴりか、ななつぼし、きらら397、そらゆき、大地の星)が植えられました。胆振農業改良普及センターによると、空育183号と北海327号については、飼料用米として現地の適応具合をみるとのこと。今後は定期的に育苗調査等が行われ、適応性等が検証されとのことです。



田植え機で調査用の苗を植えていく石橋さん

町民広場にバーベキューハウスが完成

昨年から新町町民広場で工事を進めていたバーベキューハウスが完成し、5月1日から利用が開始されました。

バーベキューハウスは木造平屋建てで、骨組や腰壁パネル、カウンターに厚真町産のカラマツ材を使用し、町産材の風合いを実感できる施設となっています。また、可動式の木製ベンチやテーブル、コンロ、LED照明などが設置され、使用人数や状況に応じて、各種行事での使用やパークゴルフ利用者の休憩所としても利用できます。なお、貸切等で利用する際には役場産業経済課へ申し込みが必要です。(☎27-2486)



皆さんのご利用をお待ちしています！

おいしくな一れ！つみき園児が田植え

5月18日、こども園つみき(宇佐美修一園長)のきりん組園児23人と保護者らが、錦町の保田さんの水田で田植えを行いました。

はじめに、宇佐美園長から「お父さんやお母さんと一緒に協力して、おいしくなれと思いながら田植えをしてください」とあいさつがあった後、園児たちはお父さんやお母さんたちと一緒に田んぼに入り、泥だらけになりながらも、楽しそうに一生懸命苗を植えていました。

この行事は、同園で食育の一環として行われているもので、今後は生育観察や収穫体験のほか、収穫祭やしめ縄作りなども行われる予定です。



おいしいお米がたくさんとれますように！

子どもたちの健全育成に向け活動

厚真町子ども会育成連絡協議会(野澤政博会長)総会が5月26日、総合ケアセンターゆくりで開催され、役員・会員ら約20人が出席しました。

開会にあたり、野澤政博会長が「お忙しい中、たくさんの方に出席していただき感謝している。今後さまざまな行事を予定しているが、皆さんのご協力をいただきながら進めていきたい」とあいさつ。

総会では、昨年度の事業報告や会計決算報告と今年度の事業計画や会計予算について審議された後、役員改選が行われ、野澤政博さんが会長に再選されました。



あいさつを述べる野澤政博会長

地域の畜産業発展に向けて尽力 厚真ファームで新牛舎等落成式

5月15日、幌里地区にある有限会社厚真ファーム(武田秀典社長)が昨年7月から工事を進めてきた新牛舎2棟、堆肥舎・管理棟各1棟の建設が完了し、フジトランスコーポレーション役員や施工業者、地元畜産関係者ら約20人が出席し落成式を行いました。

新牛舎は自然光を取り入れた設計となっており、1棟で肉牛140頭が飼養可能。建設面積は、堆肥舎や管理棟などを合わせて4,257㎡。

武田社長は「1985年に会社が設立され30年という節目に、このような牛舎を建設できたことは、先輩たちの苦勞の賜物であり、大変うれしく思います。今後も地域の畜産業発展に向けて尽力していきたい」とあいさつしていました。



新牛舎で行われた落成式の様子

上村幸生くん(上小3年)が空手で準優勝

町内の空手チーム・最強塾(幅田洋司代表)に所属する上村幸生くん(上厚真小3年)が5月3日、札幌市で開催された『JKJO Full-Contact Challenge Hokkaido 2015(第9回JKJO全日本ジュニア空手道選手権大会選抜指定大会)』に出場し、小学3年生男子A27kg以上の部で準優勝を果たしました。

上村くんは小学校1年生から空手を始め、昨年は全国大会に出場。「今回は負けてしまっただけで悔しかったけど、今度は決勝まで行けるように頑張りたいです。全国大会で優勝するのが目標です」と話していました。



賞状とメダルを手にする上村くん

自然の恵みに感謝 10回目の御田植祭

森田明央さん(桜丘)の水田で5月20日、10回目となる胆振青年神職会・日高青年神職会合同による「お田植事業」が行われ、田長の森田さんと会員6人、巫女1人が参加して御田植祭が斎行され、早乙女姿の巫女によるお田植えの後、会員らが心を込めて苗を植えました。この事業は、日本の伝統行事である人の手による田植えを青年神職自らが体験し、農業の苦勞や自然の恵みへの感謝の心を身を持って経験するという意義のもと、平成17年から同水田で実施。収穫された稲穂やお米は、伊勢神宮や胆振支部・日高支部の各本務神社(計24社)に奉納されます。



神田に苗を植える早乙女姿の巫女さん

うまく巻けたかな？飾り巻き寿司教室

5月16日、教育委員会主催の「飾り巻き寿司教室」が総合ケアセンターゆくりで開かれ、18人が参加し、飾り巻き寿司作りに挑戦しました。

これは、身近な体験を通して文化活動を育てていこうという新規事業「平成27年度マイ文化☆創造支援事業」の第1弾として行われたもの。今回は、札幌平岡イオンカルチャーセンターなどで講師を務める飾り巻き寿司1級インストラクター「maki米」こと高木愛さんを講師に招へい。高木さんのデモンストレーションの後、飾り巻き寿司づくりに挑戦した参加者は、途中苦勞しながらも上手に完成させていました。



完成した巻き寿司の出来栄に笑顔